

建築文化奨励賞

環境に配慮した建築物

大地の技術を通して迫る、建築の宇宙

アース・ブリックス

建築主：T氏

設計：アトリエ・天工人

施工：小川共立建設株式会社

所在地：千葉市緑区

組積造の建築は開口部との折れ合いが大きな課題となる。それは、気候風土が求める開口部のあり方と深い係りをもつこととは言うまでもない。環境に配慮した建築とは、そうした複合的な視点の統合として成立する。その際、その建築を支える構造と材料の資源性も主要な要素であることは明らかだ。最少限住宅ともいえるべき魅力的な小さな家に、この要素に関する試みとして膨大な熱意と労力と知見の成果が投入された。その勾玉状の柔らかな平面で構成された、しかし迫力のある建築の佇まいは、幹線ロードサイドの商業施設に挟まれて、違和感を孕みながら砂利の丘に立ちあがり、周囲に異彩を放っている。

作者の思いは、施主のおおらかな度量と美意識に支えられ、独自に考案された手作りの「土ブロック」を曲線状に積み上げるという途方もない建築行為を通して実体化した。この稀有な取り組みを了としたい。ただし、ここに提案された構法が「地球環境の改善」を標榜し、建築資源の課題にまで踏み込もうとするならば、いくつかのレアカースで終わってはならない。だからこそ、一般的に望まれる内と外との開いた関係性に対して、組積造による構造体の宿命を超えた美しい答えを開発してほしい、と願わずにはいられない。

(岩村 和夫)



手作りの土ブロックは様々な風合いをもつ



密度をキーワードに素材を選定した
(撮影/Toshihiro Sobajima)

選考の基準

1. 千葉県内において完成(増築、改築、リフォームを含む)し、現在良好に管理され、また、使用されている建築物(群)でこの表彰の趣旨に沿っているもの。
2. 機能性やデザインなど総合的に優れた建築物(群)であり次のいずれかに該当するもの。
 - ①地域の特性や周辺の環境に十分配慮され、建築物(群)と外部空間が一体となって魅力ある景観を創出し、地域の景観形成に寄与しているもの。
 - ②概ね3年以上の創意工夫に富んだ継続的な景観づくり活動により、上記①の維持・向上が実現できているもの。
 - ③だれもが、安全に、安心して、そして快適に利用できるような配慮され、日常生活や社会への参加が容易にできるような環境整備がされているもの。
 - ④環境と共生する優れた社会資産を形成するために、エネルギーや資源の高度な有効利用を図ったり、自然を取り入れた建築の工夫や、地域の生態環境や防災に寄与する取り組みなどによって地域環境と親和させるなど、人と環境に対して、健康快適な建築環境の向上について配慮されているもの。
3. 建築基準法などの諸法令に適合しており、かつ近隣等との紛争が生じていないもの。

千葉県建築文化賞選考委員会

委員長 北原 理雄：千葉大学大学院教授

副委員長 岩村 和夫：東京都市大学大学院教授

委員 青柳 英俊：社団法人千葉県建築士会会長

委員 岡部 明子：千葉大学大学院准教授

委員 夏目 幸子：建築家・NPO 住まい・まち研究会理事長

委員 藤本 香：建築士・千葉大学非常勤講師

【敬称略 委員は五十音順】

第19回千葉県建築文化賞に御応募いただきました皆様に厚くお礼申し上げます。応募総数74点の中から6点が千葉県建築文化賞、3点が千葉県建築文化奨励賞に選定されましたが、応募作品はすべて優れた特徴をもった質の高い作品でした。

作品に携われた皆様に敬意を表し、今後ますますの御活躍を期待しております。

(千葉県建築文化賞選考委員会事務局)